

道徳学習指導案

指導者：T 1 兼房高広，T 2 岡野哲朗

- 1 日時 平成16年9月17日 第5校時
- 2 学年・組 2年3組(33名)
- 3 主題名 自主・自律 <内容項目1-(3)>
- 4 ねらい 自律の精神を重んじ，自主的に考え，誠実に実行してその結果に責任をもつ。
- 5 資料名 「学級対抗リレー」(自作資料)

6 主題設定の理由

- (1) 走ることに自信を持ちながらも，周りの目や結果を気にするあまり，運動会の学級対抗リレーのメンバーに消極的な形でしか参加しなかった幸男。そして，予行演習でも結果的に全力を出さず，幼なじみで同級生の裕美に見透かされて「最低！」とまで言われてしまう。運動会の本番でも，最後の学年種目の学級対抗リレーで，結局ライバルの孝一に負けてしまう。ここで初めて自分の行動を振り返り，自分の信念のなさで満足できる生き方をしていないことに気づき，これからは自分の力のすべてを出し切り，前向きに生きていこうと新たな決心をしている。運動会を終えたばかりの本クラスの生徒には，身近でタイムリーな資料である。また，幸男の姿に自分自身を見だし，自らの生き方を振り返ることのできる資料である。
- (2) 2年3組の生徒は，運動会の練習などを見ても全体的には行動力・実践力があるように見られる。しかし，一人ひとりの生徒を見てみると，資料の「幸男」のように，力を持ちながらも積極的に自分を活かそうとしない者が多い。特に男子にその傾向が見られ，一部の積極的な女子にリードされ行動している。学級の生徒の多くが本質的に力を持っているので，結果を見るといい方に向かうことが多い。このような傾向にある生徒たちにとって，「幸男」の行動や心の変化を考えることは，自分の生き方について改めて顧みるいい機会となるであろう。
- (3) 9月12日に運動会を終えたばかりなので，まず，運動会のビデオを視聴し，その時の感動体験を想起させる。その次に，資料を読み，「幸男」の行動や心の変化を考えながら，「幸男」が最終的に至った思いと生徒自身の今の生き方を改めて比較し，考えさせる。そのことによって，周りに左右されない自律的に生きる積極的な態度を培いたい。また，事前に「運動会のMVP」として，運動会の練習や本番で頑張ってみんなを助けたり，喜ばしたり，感動させた生徒のアンケートを取り，授業の終末で紹介することで，生徒の自主的・自律的な頑張りを評価するとともに，自己肯定感を持たせたい。

- 7 準備物 運動会のビデオテープ，資料プリント，あらすじ図，ワークシート，「運動会MVP」のまとめ表

8 指導過程

	学 習 活 動	主な発問とT1の動き	T2の動き	留意点・支援と評価
導 入	<ul style="list-style-type: none"> ・運動会のビデオを 観て感想を言い合 う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動会で心に残った ことを言おう。 ・生徒を指名し、発表 させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料名を板書す る。 ・ビデオを映し、生 徒の反応を見る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・傾聴姿勢で生徒の 意見を受け止め、 ほめて返す。 ・感情の確認をし、 受容的な雰囲気をつ くる。
展 開	<ul style="list-style-type: none"> ・資料を読んで、感 想や思いを出し合 い、「幸男」の思い に迫る。 ・運動会の際の自 分を振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・挙手した生徒を指名 し、本読みをさせる。 ・T2が話している間 に、ワークシートを 配る。 「仕方ないかー」と メンバーに入った幸 男はどんな思いだっ たのか。 なぜ裕美は幸男に 「最低！」と言った のか。 なぜ淳平の後ろ姿が とても大きく見えた のだろうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・読んだ後に「あら すじ」を黒板にはり、 話の流れを確かめる。 ・出た意見を板書す る。 生徒にさらに問い かけたり、切返し たりして、意見を 深める。 ・生徒の振り返りを 支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・挙手がないときは 指導者が読む。 T2は、ワークシ ートを見て回り、 生徒の考えを把握 しておき、必要に 応じて全体に出せ るように注意して おく。 全力を出してもス ッキリとしなかつ た深層部分に迫 る。 来年の運動会や今 後の行事への意欲 につなげる。
終 末	<ul style="list-style-type: none"> ・「運動会MVP」の 紹介をし、次の頑 張りをつくる。 <p>余韻を残して終了</p>	<ul style="list-style-type: none"> アンケートの結果を 黒板にはり、楽しく 発表する。 ・授業の感想を書きま しょう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「運動会MVP」の 表をはってもらい ましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> 事前にしたアンケ ートを基にMVP を紹介し、自己存 在感・自己肯定感 を持たせつつ、道 徳的価値の自覚お よび一般化を図 る。

学級対抗リレー



いよいよ僕たち二年生の運動会の最終種目、学級対抗リレーのスタートだ。四組のアンカーの僕は、最大のライバルで七組のアンカーの孝一をチラッと見た。バスケット部の次期キャプテンで足の速い孝一は、自信満々の様子で前を見ていた。

「負けたらどうしよう。大変なことになったなあ。」と、僕は内心ドキドキしていた。「やっぱりアンカーになるんじゃないかなあ！」と後悔しながら、指揮者の合図に従って、スタート位置に並んだ。本当はこの学年対抗リレーのアンカーになるはずではなかったのだ。すべては、あの学級会から始まったのであった。

「それでは、次に学級対抗リレーのメンバーを決めたいと思います。男女各六人です。立候補はいませんか。」学級委員の淳平が言った。「出るわけじゃないじゃん。」と、誰かの声が聞こえた。クラスの雰囲気を感じ取った淳平は、「それでは、男子女子に分かれて、メンバーを決めてください。」と言い、僕たち男子は教室の前の黒板に集まった。男子は学級委員の淳平が中心になって話を進めた。「俺ら、足が遅いから出んわ。」と、伸二と幸太が言い、その他の男子もみんな黙っていて、なかなか決まりそうになかった。

一方、女子の方はというと、裕美のリードでほとんどメンバーが決まっていた。裕美は、バレー部で三年生が引退した後はキャプテンに選ばれるくらい明るくて元気のいい子だ。おまけに家が近所で、小学校のころはよく遊んだり、けんかもしたりしていたのだが、中学校になってからは、一年の時はクラスも違っていたし、お互い遠慮もあって同じクラスになった今も特に用がなければ、あまり話もしなくなっていた。

困った顔をしている淳平を見かねてか、「じゃあ、俺出るわー」と、真彦が最初に立候補した。真彦はサッカー部だが、クラスで一番速いというわけではなかった。しかし、六人となると真彦も走らないと、うちのクラスは勝てないだろう。そんなことを思っていると、同じ野球部の浩が僕に、「俺も出るから、幸男も出るよ。」と言ってきた。走るのに自信はあったが、自分から進んで立候補する気にはなれなかった。「何でお前が出るからといって、俺が出ないといけないのんや。」としぶっていると、淳平が「幸男、お前クラスで一番速いのだから、アンカーをやってくれん」と言い出した。「やばい！」と思つた僕は、「アンカーせんでえんなら走るでえ」と言った。それに、もたもたしていると、担任の先生に「男子が自分らでよう決めんのんなら、先生が決めよう。」と言われそうで、そうなれば、否いやおおうなしに自分がメンバーに選ばれるのはわかっていた。「仕方ないかー」と言いながらメンバーを引き受けた。

その後も、淳平は他の人に頼んで回り、何とか僕ら四組の学級対抗リレーのメンバーは決まった。スタートはジャンケンで負けた浩。女子の最後でアンカーにバトンを渡すのは裕美だった。女子の方も最後に誰がなるかもめたようだったが、裕美が自分から立候補したらしい。そして、男子のアンカーはというと、これも浩と同じくジャンケンで負けた伸二だった。伸二も特に足が遅いというわけでもなく、クラスの男子のタイム順で選べば、当然六人の中に入る一人だったが、僕よりは遅かった。「ちょっと、申し訳ないな」という気もしたが、「自分も走るのだから同じ。」と自分を納な得とくさせた。

予行演習の日、わが四組はというと、みんなのがんばりのかいあって、途中経過では七組に次いで二位であった。そして、いよいよ二年の最終種目の学級対抗リレーとなった。「用意、ドン！」の合図でタイミングよく浩が飛び出し、大きくリードして次の美由紀にバトンを渡した。彼女も一生懸命に走り、一位でバトンを渡そうとしたが、その次の信彦が、うまく取ることができず、バトンを落としてしまった。「わあー」という周囲のどよめきの中、信彦はバトンを拾い、急いで駆け出した。しかし、先ほどまで一位だった順位が三位と大きく後退していた。しかし、その後の淳平らのがんばりもあり、僕は二位でバトンをもらった。一位は七組、その距離は少しあったが僕の足でがんばれば、追いつけない距離でもなかった。しかし、「一生懸命に走って追いつけなかったら、格好悪いな」と思い、少し力を抜いて走り、二位のまま裕美にバトンを渡した。裕美は顔を真っ赤にして走り差を大きく詰めて、アンカーの伸二にバトンを渡した。伸二も一生懸命に走ったが、孝一には勝てず、二位のままゴールした。この結果、予行演習の一位は七組、二位は四組、ということになった。淳平が「惜しかったなあ！」と言ってきたので、「じつせ、予行演習じゃん！」と軽く言っただけだ。



帰りの会が終わってクラブに出ようとした僕の所に裕美がやってきた。そして、裕美は「最低！」と言って教室を出て行った。突然のことであ然としたが、その時の裕美の冷やかな視線は、忘れられなかった。

その後、予行演習を終えてのリレーの作戦会議があり、淳平の提案で男子だけリレーのメンバーと順番を変えることになった。まずバトンを落とした本来あまり運動が得意でなかった信彦に代わって幸太が入った。そして、「アンカーは？」ということになり、周りから強くすすめられて、僕がアンカーになることとなった。

いよいよ、運動会本番。クラスみんなのがんばりもあり、僕ら四組は、十点差の一位で最終種目の学級対抗リレーを迎えた。二位は七組、三位は一組と続いていた。最後のリレーは得点が高く、このリレーで勝ったクラスが二年の優勝となる。

「用意、ドン！」のスタートでリレーは始まった。浩は、前回ほどのいいスタートではなかったが、何とか一位で次にバトンを渡した。次から次へとうまくバトンを渡し、幸太も速かった。しかし、七組も必死で追い上げ、裕美と次の七組の女子とは少ししか差はなかった。「お願い！」と言って裕美は腕を大きく伸ばして、僕にバトンを手渡した。バトンをもらうと僕は一生懸命に走った。とにかく前へ前へと、足を出した。歓声や応援も聞こえたが、ただ走ることに集中した。しかし、すぐ後ろから孝一の荒い息づかいと足音が迫ってくる。そして、ついにゴール直前で、僕は孝一に抜かれ二位でゴールした。うれしそうに駆けていく孝一の背中を見ながら、僕はその場にしゃがみ込んだ。

「負けた！」

今度は全力を出して孝一に負けたのだ。しかし、僕はスッキリしなかった。そして、一人とぼとぼ歩いていた。後ろから「元氣出せよ！」と言って、淳平が肩をたたいて走って行った。その後ろ姿が、僕には何だかとても大きく見えた。



2年3組の運動会の思い出

1 運動会の本番までの練習で思い出・印象に残っていることを書きましょう。

--

2 運動会の本番の中で思い出・印象に残っていることを書きましょう。

--

3 今年の運動会で自分自身、「これがんばった」と思うことと、その理由を書きましょう。

がんばったこと	
【その理由】	

4 2年3組の中で、今年の運動会でMVP(がんばった人)を5人選び、その理由を書きましょう。

がんばった人	選んだ理由